

ディクソン David Dickson (1947ー)

『オルターナティブ・テクノロジー』 1974 年刊

1960 年代中盤のシューマッハーによる中間技術の提唱を先駆として、70 年代には、近代的工業技術に対抗し、それを代替する技術を生み出そうとする運動が活発となるが、ディクソンの『オルターナティブ・テクノロジー』は、そのような動きに呼応する論考の中でもひとときわ精彩をはなっている。

ディクソンは、技術そのものは政治的に中立であるとする「神話」に対し、技術の存在形態そのものが、すでにその社会の権力構造や経済的要因を色濃く反映しつつ現象しているものであり、そのようなものとしての現代技術が、ひるがえっては権力の集中や人間の疎外をもたらしているとする。したがって、それに替わる技術の提案も、単に生態学的側面での適合性にとどまらず、個人に充足をもたらすもの、小規模で分散的なものとして提案されることになる。すなわちディクソンによれば、テクノロジーの望ましい変革は、必然的に社会的・政治的変革をともなうものなのである。第三世界に適合的とされる中間技術も、いかなる社会構造をつくりあげるか、という政治的構想と組み合わせて導入されないと、単に先進国の工業化のイデオロギーの矛盾を導入する結果に終わるということになる。

現在のテクノロジーに代わるものとして、エネルギーや食糧、住居、輸送などの分野の技術が、一定の具体性をもって提案されている。

(田中直)

[書誌データ]

Dickson, D. *Alternative Technology and the Politics of Technical Change*. William Collins & Sons Co. Ltd., 1974 田窪雅文訳、1980、『オルターナティブ・テクノロジーー技術変革の政治学』時事通信社、1980

(出典: 社会学文献事典、弘文堂、1998)

[目次]

序章

第 1 章 現代テクノロジー批判

第 2 章 工業化のイデオロギー

第 3 章 技術変革の政治学

第 4 章 ユートピア・テクノロジー

第 5 章 ユートピア・テクノロジー(つづき)

第 6 章 中間技術と第三世界

第 7 章 神話と責任